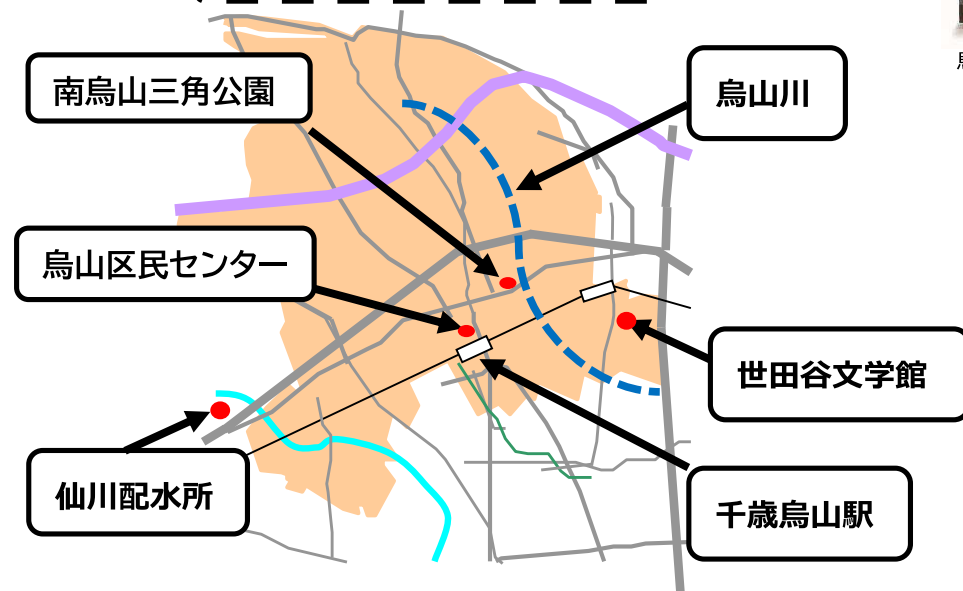


烏山地区の小さな公園

今回ご紹介するのは、南烏山三角公園（南烏山3-12-18）。おそらくこの地区で一番小さい公園です。旧甲州街道と国道20号線のちょうどまん中あたり、グローリオのマンション群を背にして三角形の花壇を中心に、片側に丸い石の腰かけが2つ、そして反対側に水飲み場があります。歩道に面した三角の花壇の二辺は、ほんの30歩程で歩けるような小さな公園ですが、花壇の中には特大のローズマリーや季節の花や低木がびっしりと植え込まれています。季節の花たちの勢いに出会えば、忙しい通勤や通学の途中でもホッとした一瞬になるのではないのでしょうか。ワンコさんのお散歩の途中のひと休みには特にお勧めの小さな公園です。



本号で紹介したスポット



地域のつながり

～烏山区民センターで活動する団体～

地域の拠点となっている烏山区民センターには、けやきネットに登録された沢山の団体が活動しています。今年もセンター文化祭がある10月18日・19日に向けて活動していると思われます。いったいどのくらいあるのでしょうか！例えば、花を主体とするサークルでは、ドライフラワーで作る押花絵、絵手紙、リース飾り、生花を使つてのアレンジメント、リースなど多種多様です。体を動かすサークルでは太極拳、健康体操、フォークダンス、フラダンス、ジャズダンスとこれも多種多様です。ちょっと変わったところでは男の料理講座や詩吟、シャンソンを歌う、もちろんコーラスなど音楽関係もあり、ピアノやギター、ウクレレといった楽器の演奏クラブもあります。最近ではパソコン・スマホを使つての楽しい場づくりになっているところもあります。地域のつながりを広めて、強いては地域づくりを担ってきています。そんなたくさんのサークルが烏山区民センターに登録されているだけで38団体あまり。内容を詳しく知りたい方は「けやきネット」で検索を！



烏山地域キャラクター「からびょん」

ミニコミ紙「ふれあい」は、烏山地区にお住まいの方で構成される烏山地区身近なまちづくり推進協議会から選出された編集委員によって作成しています。



烏山地区
ミニコミ紙
第117号
令和7年9月17日



ふれあい

バックナンバーは区のホームページでご覧いただけます。
← こちらのQRコードからどうぞ！

発行/烏山地区ミニコミ紙編集委員会
事務局/烏山まちづくりセンター Tel.3300-5420

どうなる京王線？

京王電鉄京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の工事が進んでいます。これにより代田橋駅・明大前駅（京王線）・下高井戸駅・桜上水駅・上北沢駅・芦花公園駅・千歳烏山駅は高架駅となります。合わせてこの7.2キロメートルの区間中の25箇所の踏切を廃止するとともに7箇所の都市計画道路を立体化し、あわせて側道が整備されることになっています。烏山地区ですと、芦花公園駅、そして千歳烏山駅近辺が該当します。

この工事、まず、下り（調布方面）の線路が高架化されます。その後、上り（新宿方面）の線路が高架化されます。もうところどころで構造物、コンクリートの柱などを見ることができるようになりました。千歳烏山駅は、現在の場所から少し南側に膨らむように建設され、完成時には2面4線と現在よりも規模が大きい駅になる予定です。将来的にはここで普通列車と急行、特急などの待ち合わせや追い抜きができるようになるということです。この立体化工事の事業期間（工事期間）は2030年（令和12年）度末までということになっています。予定ではあと、5年少しはかかるようです。立体交差事業に合わせて、道路の方も変化があります。例えば駅南側から旧甲州街道に向けて補助線街路216号という370メートルの道が新設されます。



烏山地域キャラクター「からびょん」

計画では、この道路ができると、京王線を横断する車両の多くが新しい道を走ることになり、現在の駅前商店街などは歩行者が買い物しやすい環境になることが期待されるということです。

そして計画では、その道と京王線の交差点部分南側には広さおよそ4,500㎡の交通広場が作られます。昔、藍屋というレストランがあったあたりです。南側には民間により地上34階、地下2階、高さ約140メートルの超高層複合ビルが建設される計画もあります。この再開発は、2026年度の都市計画決定、2034年度の完成を目指しているそうです。

一方、芦花公園駅は道路などには大きな変更はないようです。工事期間中の令和8年の夏以降には改札口の場所が、上り、下りので別々になり駅構内での行き来はできなくなります。駅前踏切の閉鎖時間が長いことも踏まえ、線路をくぐる自由地下通路を現在作っているそうです。これは昔の芦花公園駅の地下改札時代をご存知の方は懐かしいかもしれませんね。今回は地下に改札はできません。

烏山区民センターの1階には駅周辺の街づくりの情報を掲示している場所があります。興味のある方はぜひご覧になってください。

場所によってはこの10年以内に環境や人や車の流れが大きく変わる烏山地区。さらに暮らしやすい街になってほしいですね。

烏山川～暗渠化された川の歴史～

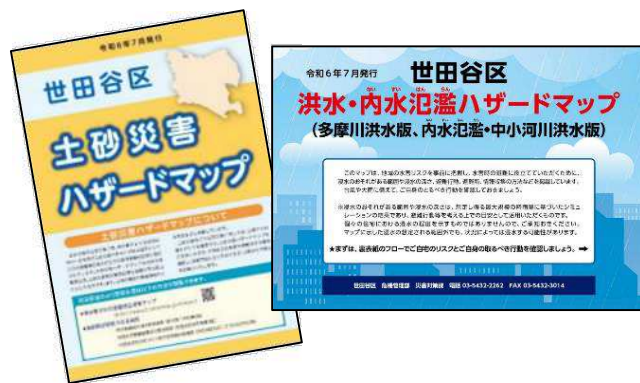
烏山川という名前の川をご存知でしょうか？北烏山から都営烏山アパート、京王線芦花公園駅の西側の下をくぐり、途中、二手に分かれ、また合流などして芦花公園団地、芦花小学校、明治大学八幡山グラウンドを通り、最終的には経堂駅近くで小田急線をくぐり、池尻で北沢川と合流し、目黒川と名前を変えて東京湾に注いでいる全長およそ12キロメートルの川です。とは言っても、実際に水路が見当たりません。実は、烏山川は現在は暗渠化（あんきょか）といって、蓋がされ、その流れを見ることはできません。

烏山川は、寺町にある鴨池（弁天池）を源流とされていて、一部、玉川上水の岩崎橋付近からも水を分水して合流させ、地域の農業用水として古くから使われていました。旧甲州街道近くには明治時代に水車小屋があったという記録が残っています。池尻の合流地点までに合計18の水車小屋がありました。生活に密着した川だったのです。その後、昭和50年代に急激な人口増加などによる生活排水などの流入、農業用水としての役割がなくなってきたことから川としての役割を終えることになり、暗渠化されました。つまり、川に蓋がされ、地中化されたのです。現在では下水道の烏山幹線として東京都下水道局が管理しています。この流路の地上部分は現在、緑道・遊歩道化されていて、ご存知の方も多いでしょう。その道を辿っていくと、途中にいくつかの橋の痕跡、場所によっては欄干が残っているところもあります。そこにかかっていた橋の名前を確認することもできます。国道20号バイパスにも公社烏山松葉通り住宅の9号棟と10号の間から南に向かって斜めに横断している流路の痕跡を確認することができます。

烏山川緑道



この烏山川と旧甲州街道の交差部分、大橋場という橋が昔かかっていました。ここで、およそ100年前に発災した、関東大震災の翌日、震災で壊れた京王電鉄笹塚車庫の修理に向かうために工事用車両に乗っていた朝鮮出身の方々が、ちょうどこの大橋場の場所で橋が壊れていたため立ち往生していたところ、この地で、朝鮮人による悪行のデマを信じてしまった地元自警団によって襲われ、死傷者が出たという悲しい事件が起きていました。現在その場所には昭和62年に建立された「武州烏山村 大橋場の跡」という石柱が立っています。その石柱が建立された経緯などは粕谷図書館に蔵書の下山照夫編「武州烏山史跡 大橋場の石柱碑建立記念の栞」に詳しく書いてあります。



さて、烏山川に話を戻しますと、「川」です。で、当然、その地域の海拔の低い方向に向かって流れています。令和6年発行の洪水・内水氾濫ハザードマップによると、旧烏山川、そして千歳烏山駅近くの暗渠も含め、想定最大規模降雨:時間最大雨量153mm、総雨量690mmで、下水が溢れる等による内水氾濫や中小河川の洪水が発生する可能性があります。浸水の深さは千歳烏山駅付近、芦花公園駅では1メートルから2メートル、場所によっては2メートルを超えることが予想されています。最近では急激に大量の雨が降ることがあります。ぜひ一度インターネットで世田谷区のハザードマップを確認してみてください。今はその流れを見ることのできない烏山川ですが、その地下には流れがあり、その排水能力を上回る雨水が流れ込んだ時には溢れ出します。で、ぜひ気にしてみてください。普段は平穏な旧烏山川の流れのうち、およそ7キロメートルは緑道、遊歩道になっています。一部は立ち入り禁止となっている場所もありますのでお気をつけください。川の流れに思いを馳せながらお散歩してみ

るのもいいですね。※世田谷区のハザードマップについては区のホームページで見ることができます。烏山総合支所・まちづくりセンターには印刷されたものもありますので、ご覧になりたい方はお問い合わせください。



災害時給水ステーション

災害時給水ステーションは水道本管が断水した場合に、必要な水を確保するための最後の手段です。烏山地区の近くにあるのは

1. 杉並区立昭栄公園 杉並区高井戸西 1-12
2. 都立祖師谷公園 世田谷区上祖師谷 4-2
3. 世田谷区立葎根公園 世田谷区船橋 6-21

これらは水道本管の水を迂回させて、いつも新しい水に入れ替えながら蓄えておき、本管が断水したときに貯めてある水を汲み出して使うための施設で、貯水量はいずれも1,500㎡です。

そのほかに給水所や配水所に併設された災害時給水ステーションもあります。

4. 三鷹新川給水所 新川 2-1-15 貯水量 3,330㎡
5. 仙川配水所 仙川町 3-6-27 貯水量 320㎡
6. 上北沢給水所 上北沢 5-2 貯水量 40,000㎡

給水所、配水所というのは浄水場から送られた浄水を一旦貯めて、需要に応じて本管に加圧配水するための施設です。このうちの上北沢給水所は新設で、お訪ねしたときはまだ工事中でしたが、災害用の施設は国道20号線の歩道に面して10個の蛇口が並び、門をあけて頂ければすぐにも使える状態にみえました。もしも水道本管が無事であった場合は、避難所に指定されている小中学校に本管直結の応急給水栓が設置されることになっています。ただし災害時はだれもが多かれ少なかれ被災します。こうした施設を運営している人もかならず無事とは限りません。すぐに必要な対応をして水をもらえるとは思えないほうがよいので、当面困らないように1日あたり3リットルを家族の人数分、4-5日分備蓄しておきましょう。



都立祖師谷公園
災害時給水ステーション

世田谷文学館



世田谷文学館



世田谷文学館の開館30周年記念の企画としてドナルド・キーン展が開かれる、というので初めてセタブン(公式の愛称らしいです)に入ってみました。キーン展は11月15日からの記念第2弾なのでまだ始まっていません。訪れたときは第1弾として漫画とアニメ作家で絶大な人気の士郎正宗の世界展でした。

入館が初めてなので、建物からじっくりみてきました。通りから正面玄関に向かうと左側に古い邸宅の門と漆喰の土蔵、それに沿って堀割りが玄関までつづき、そこからは湾曲したガラス張りの建物にそって大きな池が広がり、水には錦鯉が泳いでいます。玄関を入ると左側は鯉の池を眺められるロビー、奥にはガラスに囲まれた円形の中庭があり緑に照り映えた光が明るく気持ちがいいです。士郎正宗展は2階で展示です。アニメの原画、漫画誌に掲載した当時の手書き原稿、ペンやナイフなどの道具が展示されていて動画や音声のある展示はありませんでした。士郎正宗の代表作は攻殻機動隊ですが、アニメを発表したのが1995年でセタブン開館と同じ年です。1階に降りてライブラリーも覗いてみました。ここの本や雑誌の品揃えは風変わりです。士郎正宗の単行本も置いてあったので立ち読みしました。それからセタブンを出たのですが、そのころには士郎正宗をもっと読んでみたくなっていました。セタブンの力なのか？

11月のキーン展でもキーン作品を読んでみたくなったという人が増えると嬉しいです。